

答え合わせ・解説

問1	答え 1 タイガ	冷帯（亜寒帯）気候に属するロシア連邦北部やカナダなどに広がる針葉樹の純林を指す。ステップは乾燥帯に見られる丈の短い草原、ツンドラは寒帯に見られるコケ類などが生える原野、混合林は針葉樹と広葉樹が混在する森林のことである。
問2	答え 1 再生可能エネルギー	地球温暖化の主な原因とされる二酸化炭素の排出を抑えるため、世界的に石炭や石油といった化石燃料への依存を減らす取り組みが進んでいます。ドイツなどのヨーロッパ諸国では、地形や気候条件を活かした風力発電や太陽光発電の導入を国を挙げて推進しており、これらは自然のサイクルの中で繰り返し得られるため再生可能エネルギーと呼ばれます。日本においても導入が進められていますが、2015年時点の統計では供給割合が1.5%にとどまるなど、欧州諸国と比較して普及に向けた課題が多いのが現状です。
問3	答え 1 第二次世界大戦後、資本主義の西側と社会主義の東側に分断されていたが、冷戦の終結とともに1990年に再統一された。	ドイツは第二次世界大戦の敗戦後、アメリカ・イギリス・フランスが占領した西側（ドイツ連邦共和国）と、ソ連が占領した東側（ドイツ民主共和国）に分断されました。1989年の東欧革命の流れの中でベルリンの壁が開放され、翌1990年に東側が西側に編入される形で再統一が実現しました。明治時代の日本は、医学についてはイギリスやフランスではなく、主にドイツ（当時はプロイセンなど）を模範としていました。
問4	答え 1 夏の乾燥に強いオリーブやブドウ、冬の降水を利用した小麦などを栽培する。	イタリアが位置する地中海沿岸部では、夏に乾燥し冬に雨が降る地中海性気候が見られます。この気候に合わせて、夏場は乾燥に強いオリーブ、ブドウ、オレンジなどの果樹を育て、冬の雨を利用して小麦を栽培する地中海式農業が発達しました。
問5	答え 1 キリスト教	ヨーロッパではキリスト教が広範囲にわたって信仰されており、日曜日の休日やクリスマスの行事、街の中心に位置する教会建築など、生活のいたるところにその影響が見られます。地域によってカトリック、プロテスタント、正教などの宗派の違いはありますが、ヨーロッパ文化の共通の基盤となっています。
問6	答え 1 キリスト教のカトリックが広く普及しており、北欧諸国とは異なる傾向にある。	ヨーロッパにおけるキリスト教の分布は地域ごとに特色があります。イタリアやフランスを含む南ヨーロッパや西ヨーロッパの一部ではカトリックが強く、イギリスやドイツ北部、北欧諸国ではプロテスタントが、東ヨーロッパでは正教会が主に信仰されています。イタリアとフランスは地理的に隣接しており、歴史的な背景からともにカトリックの影響を強く受けています。
問7	答え 2 フランスは、アメリカ合衆国やブラジル、モンゴルなどと比較して、人口密度が最も高い。	フランスの面積は約64万km ² であり、アメリカ合衆国（約963万km ² ）、ブラジル（約852万km ² ）、オーストラリア（約769万km ² ）、モンゴル（約156万km ² ）、南アフリカ（約122万km ² ）のいずれの国よりも小さくなっています。一方で人口は約6688万人と、アメリカやブラジルよりは少ないものの、モンゴルやオーストラリアを大きく上回っています。このため、1平方キロメートルあたりの人口を示す人口密度は、比較対象の6カ国の中でフランスが最大となります。
問8	答え 1 プレートの運動によって地層が押し曲げられて形成された、険しい褶曲山脈である。	アルプス山脈は、アフリカプレートとユーラシアプレートが衝突する際の強い圧力によって地層が波状に押し曲げられ、隆起してできた「褶曲（しゅうきよく）山脈」です。このように、比較的新しい時代に形成された高くて険しい山脈が連なっている地域を新期造山帯と呼びます。選択肢にあるピレネー山脈（フランス・スペイン国境）やヒマラヤ山脈（アジア）との位置関係の違いを把握しておくことが重要です。
問9	答え 1 ラテン系	ヨーロッパ南部の地中海沿岸に位置するイタリア、フランス、スペインなどでは、古代ローマで使われていたラテン語を祖先とする言語を話すラテン系の民族が多数を占めています。キリスト教の宗派ではカトリックを信仰する人が多いことも特徴の一つです。